

弓削商船高等専門学校令和5年度（2023年度）年度計画に対する実績報告

【達成状況欄】◎：既に達成している ×：年度末時点で達成できない

令和5年度 年度計画 (高専名：弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツ・パンフレット等の充実や、地域における中学校等への広報活動を行い、本校の特徴や魅力を発信する。</p> <p>また、中学生及びその保護者等を対象に国公立の高等専門学校が連携して合同説明会を開催することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、Facebook、Instagram、Youtubeを活用して学校の様子を公開した。 ・新たに学科紹介動画を作成し、第2回オープンキャンパス(オンライン)で配信した。 ・新たに授業(音楽)の様子を撮影した動画を作成し、Instagramで公開した。 ・学校案内パンフレットに掲載したQRコードから、学生の紹介動画にアクセスできるように工夫した。 ・機構本部が主催する国公立高専合同説明会に6月18日東京にオンラインで、7月16日大阪に対面で参加した。 ・機構本部が主催するKOSEN FAIRに10月8日に参加した。 ・入試状況の変化等を分析し、電子機械工学科のPR及び女子生徒に対するPRに力を入れた。 ・FacebookとInstagramに144件の投稿を行った。(R6.3.31現在) ・Facebookいいね数1,163件(昨年度末比104%)、Instagramフォロワー数1,575件(昨年度末比133%)、またYoutube登録数406件(昨年度末比129%)である。(R6.3.31現在) ・HPアクセス数(ページビュー数)は604,791件であった。(昨年度末比85%)(R6.3.31現在) ・本校第1志願者数は推薦、学力合わせて194名であり、昨年度(189名)から4%増加した。 	◎：既に達成している	
<p>①-2 進路説明会、体験航海、出前授業、オープンキャンパス、学校説明会等の機会を活用することにより、入学者確保のための国立高等専門学校及び本校の特性や魅力を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校30校の進学説明会に参加した。 ・出前授業を10回、弓削丸体験航海出前授業、体験航海等を合わせて7回実施し、本校の特性や魅力を発信した。 ・7月22日、23日に第1回オープンキャンパスを実施し、250組668名が参加した。 ・9月3日に第2回オープンキャンパスをオンラインで実施し、40名が参加した。 ・11月3日、4日に第3回オープンキャンパスを実施し、123組304名が参加した。 ・保護者向けのLINEで、随時質問を受け付けた。 ・保護者向け学校説明会を6月に因島地区、福山地区、三原地区で、10月に今治地区で実施した。(昨年度の参加状況から、中学校教員への説明会を取りやめ、保護者向け学校説明会に変更した。) 	◎：既に達成している	
<p>②-1 高専女子フォーラム等の機会の活用やオープンキャンパスにおいて女子生徒を対象としたブース出展を行い、女子学生の確保に向けた取組を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回オープンキャンパスにおいて、「女子学生交流フォーラム」を実施し、本校女子学生と受験生の交流を図った。 ・女子のオープンキャンパス参加者数は第1回から第3回まで合わせて述べ75名と前年度と比べて微減したものの、女子の本校第1志願者数は40名で、前年度(24名)から39%増加した。 	◎：既に達成している	
<p>②-2 留学生の確保に向けて、英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語版HPについて、写真データの更新を行った。 ・国際交流推進室Facebookに10件の投稿を行った。 ・国際交流推進室Facebookいいね数23件、フォロワー数30件であった。 	◎：既に達成している	
<p>③ 本校の入学者選抜方法について、アドミッションポリシーを踏まえ検討する。</p> <p>また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの高専で受験が可能となる「最寄り地等受験」及び「Web出願システム」について、機構本部の方針に従って、引き続き実施する。</p> <p>加えて、令和4年度に引き続き、受験生の志願校の選択肢を広げるため、一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志願が可能となる「複数校志望受験制度」を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜方法について、アドミッション・ポリシーを踏まえ、学力検査の配点の検討を行った。 ・昨年度に引き続き、「最寄り地等受験」及び「Web出願システム」について、機構本部の方針に従って実施した。 ・昨年度に引き続き、本校と広島商船高専、大島商船高専で「複数校志望受験制度」を実施した。 	◎：既に達成している	
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1 本校の強み・特色を活かした教育課程の改善・再編について検討する。</p> <p>商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。</p> <p>練習船弓削丸の代替新造船(商船系高専二番船)の竣工に向け、5校の商船系高専が引き続き連携する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代海洋人材育成事業を引き続き実施し、人材育成及び広報活動の観点から将来構想について検討した。 ・代替船建造打合せ会議を1回実施した。「全体部」、「船体部」、「機関部」、「電気部」に分け、各承認図のチェックを実施するとともに、各種試験等の立会いを行った。 ・令和6年度の1年生から年次進行で、シラバスをMCC2023年版に対応させるよう検討した。 ・高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援事業への応募に向け、電子機械工学科はMCCの対応を機械系分野から情報系融合複合分野へ、情報工学科は2コース制への転換を検討した。 ・電子機械工学科と情報工学科で、初年次の専門共通科目の統合を検討した。 	◎：既に達成している	
<p>①-2 専攻科において、大学と連携・協力し、大学の教育資源を有効に活用する。また、社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、産業界等と連携した共同教育や、本校の特色を活かした共同研究を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位互換協定に基づき、豊橋技術科学大学が実施するe-Learningに12名が参加し、8名が受講完了した。 ・産学連携フォーラムを12月5日に開催し、企業等から前年を上回る20名の参加があった。 ・共同研究について、新規で1件、継続して5件実施している。 ・地域の課題解決をテーマとした以下の研究に取り組んだ。 海水を利用した発電に関する基礎的研究 弓削島周辺の貝殻を利用した教材製作に関する研究 上島町の大気汚染物質の挙動解析 直立した板における流体構造連成解析 球拾いロボットの製作 アルキメディアンスクリュを用いた水力発電モデルの作成 双胴船式開放型下掛け水車における水路内通過水流の観測装置の開発 3Dプリンタを用いたコイルばね式水車トルク計測器の開発 フルシャート式弁装置がわかる公開講座のための教材開発 アクアポニックス生産システムの開発 地域資源によるバイオマス炭化物の新規利用法の提案 放置竹林を活用した竹・竹炭魚礁の開発 救難情報送信機能を持つ漁船見守りWebシステムの構築 漁船見守りシステムにおけるLPWA多地点同時送信の安定化に関する研究 モーション検知によるライフジャケットのインテリジェント化 ライフジャケットIoT化による見守りシステムの開発 上島町高齢者向けスマホ教室のコースウェア開発 小型船舶航行支援システム用モジュールに対応したアプリ開発 動画像から前景領域を抽出した非接触な水面積計測 俯瞰画像を用いた自然風景の変化抽出システムの開発 	◎：既に達成している	

令和5年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
②-1 学生が海外で活動する機会を後押しするために、海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣を9月3日～17日に実施し、3名の学生が参加した。 協定校であるナコンパノム大学への学生派遣を12月16日～28日に実施し、4名の学生が参加した。 高専生の海外活動支援事業の一環として、学生をタイに4名(11月25日～12月3日)、シンガポールに15名(12月17日～24日)、フィリピンに3名(2月25日～3月9日)派遣した。 ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)との国際交流プログラム(オンライン)(3月16日実施)に1名が参加した。 	◎:既に達成している	
②-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組の改善・充実を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の海外インターンシップに参加した学生の報告会を6月22日、26日、28日、29日に実施した。また、今年度の海外インターンシップの様子をホームページや「弓削商船だより」で報告した。 専攻科1年生を対象とした外部外国人講師による英語キャンプを9月26日～29日に実施し、英会話能力の向上を図った。 商船学科においてALTを活用した英会話教室を開催した。 	◎:既に達成している	
③-1 学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 「全国高等専門学校体育大会」では、3クラブ17種目の出場資格を獲得し、陸上競技女子走幅跳で第1位、剣道競技女子個人の部で準優勝を受賞した。その他「全国プログラミングコンテスト」の競技部門に出場、「全国デザインコンペティション」AMデザイン部門及び「高専GCON」では、それぞれ優秀賞を受賞した。 	◎:既に達成している	
③-2 学生に対し、ボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、単位認定などにより学生のボランティア活動への参加を推奨する。	<ul style="list-style-type: none"> 学生会と学生主事・学生主事補が計画し、学生による松原海岸周辺の清掃活動(ゴミ拾い)を2月1日に約60名で実施した。 防災リーダー育成研修会を2月2日に実施して33名の学生が参加した。 電子機械工学科、情報工学科において、ボランティア活動を地域創生演習として単位認定することによりボランティア活動への参加を推奨した。 「スマホ教室」、「夢現塾」等、離島工学に関わる事業を継続して実施した。[地域創生推進室] 地域の課題解決をテーマとした以下の研究に取り組んだ。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> 海水を利用した発電に関する基礎的研究 弓削島周辺の貝殻を利用した教材製作に関する研究 上島町の大気汚染物質の挙動解析 直立した板における流体構造連成解析 球拾いロボットの製作 アルキメデียนスクリューを用いた水力発電モデルの作成 双胴船式開放型下掛け水車における水路内通過水流の観測装置の開発 3Dプリンタを用いたコイルばね式水車トルク計測器の開発 ワルシャート式弁装置がわかる公開講座のための教材開発 アクアポニックス生産システムの開発 地域資源によるバイオマス炭化物の新規利用法の提案 放置竹林を活用した竹・竹炭魚礁の開発 救難情報送信機能を持つ漁船見守りWebシステムの構築 漁船見守りシステムにおけるLPWA多地点同時送信の安定化に関する研究 モーション検知によるライフジャケットのインテリジェント化 ライフジャケットIoT化による見守りシステムの開発 上島町高齢者向けスマホ教室のコースウェア開発 小型船舶航行支援システム用モジュールに対応したアプリ開発 動画画像から前景領域を抽出した非接触な水面積計測 俯瞰画像を用いた自然風景の変化抽出システムの開発 	◎:既に達成している	
③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで学生の国際会議参加や海外留学等の機会の拡充を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供した。 昨年度の海外インターンシップに参加した学生の報告会を6月22日、26日、28日、29日に実施した。また、今年度の海外インターンシップの様子をホームページや「弓削商船だより」で報告した。【再掲】 	◎:既に達成している	
③ 多様かつ優れた教員の確保 ① 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目担当教員の公募のうち商船学科1名、電子機械工学科2名、情報工学科1名について、博士の学位を有すること、または取得見込であることを応募資格に掲げた。 	◎:既に達成している	
② クロスアポイントメント制度について周知する。	<ul style="list-style-type: none"> 第5回人事委員会において周知した。 	◎:既に達成している	
③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 育児短時間勤務を2名、介護短時間勤務を1名が利用した。 7月21日付けで同居支援プログラムについて募集を行い、1名の教員を令和6年度から令和10年度まで派遣することとなった。 個人別の変形労働時間制の導入に向け説明会を行い、意見聴取を実施した結果、令和6年度から同制度を導入することとなった。また、令和5年度は1名について育児に対する配慮として個別の変形労働時間制を実施した。 女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を12月6日に実施し、15名の女性教職員が参加した。 	◎:既に達成している	
④ 外国人教員の採用を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> 常勤1名・非常勤講師1名の外国人教員を雇用している。 	◎:既に達成している	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、両技術科学大学との教員人事交流制度について周知する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。	<ul style="list-style-type: none"> 6月に技科大との教員交流人事制度について周知した。 6月に高専間教員人事交流について周知した。 	◎:既に達成している	
⑥ 教員の能力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な活動参加を推奨する。	<ul style="list-style-type: none"> 9月12日～15日に開催されたISATE2023に教員3名が参加した。 11月～12月に教員の相互授業参観を実施した。 学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。 高専新任教員研修会(5月22日～23日集合研修)に3名が参加した。 高専中堅教員研修会(10月16日～17日集合研修)に2名が参加した。 11月20日にSPOD講師派遣プログラム「業務DX入門」を開講し、教職員計62名が聴講した。 	◎:既に達成している	
⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを国立高等専門学校教員顕彰に推薦する。また、学内においても顕著な功績が認められる教職員を表彰する。	<ul style="list-style-type: none"> 国立高等専門学校教員顕彰の推薦者を選考するため、教員の自己評価・相互評価及び学生による教員評価を10月に実施し、11月に2名の教員を国立高等専門学校教員顕彰に推薦した。 令和4年度中に顕著な功績が認められた教職員に対し学内表彰を実施した。また、人事委員会において、令和5年度の表彰対象者を決定した。 	◎:既に達成している	

令和5年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <p>① ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの適切性を精査するとともに、モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進め、教育実践のPDCAサイクルを機能、定着させるため、以下の項目について重点的に実施するとともに、令和5年度に公開予定のモデルコアカリキュラムに則した本校教育カリキュラムの改訂を検討する。併せて、高専における教材などの共有や履修単位の互換認定を進める。</p> <p>[Plan] WEBシラバスにおけるルーブリックの明示による到達目標の具体化・共有化</p> <p>[Do] アクティブラーニング等による教育方法の改善を含めた教育の実施状況の確認と機構本部から紹介された好事例の共有</p> <p>[Check] CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査の実施による教育効果の検証</p> <p>[Action] 教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動等の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 改訂されるモデルコアカリキュラムに準拠するよう、本校の教育カリキュラムを改正した。 WEBシラバスにおいてルーブリックを明示し、到達目標を具体化、共有化した。 各授業において、アンケートや小テストを実施するなど、教育の実施状況を確認した。 CBTを11月～1月に実施し、学習到達度の把握に努めた。 9月に9月卒業生、修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。 10月に在校生に対し、学修状況アンケートを実施した。 3月に3月卒業生、修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。 11月～12月に教員相互の授業参観を実施するなど、ファカルティ・ディベロップメント活動等を推進した。 	◎:既に達成している	
<p>② 教育の質の向上に努めるため、自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価結果について対応する。また、国立高専教育国際標準(KIS)の受審についても検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度自己点検・評価報告書を11月に作成予定である。報告書を11月に作成し、ホームページに掲載した。 外部委員による運営諮問会議を12月14日に開催した。 機関別認証評価結果において、改善を要する点として指摘された事項の改善状況を、第1回自己点検評価委員会にて報告した。 7月24日開催の教務主事対象新MCC説明会において、KISについて説明を受けた。また、8月21日、22日開催の全国教務主事会議において、KISの説明を受け理解を深めた。 	◎:既に達成している	
<p>③-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))を継続する。</p> <p>また、地域の自治体等と連携し、小中学生・高校生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を行い、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成を推進するとともに、本校におけるSTEAM教育の高度化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「スマホ教室」、「夢現塾」等、離島工学に関わる事業を継続して実施している。【再掲】 「スマホ教室」、「夢現塾」等、離島工学に関わる事業を継続して実施した。【地域創生推進室】 電子機械工学科、情報工学科において、地域創生演習を開講し、課題解決型学習(PBL)を実施した。 出前授業を通じて、小中学生・高校生を対象としたSTEAM教育の支援を行った。 起業家工房センターを設置し、校内におけるSTEAM教育の充実を図った。【起業家工房センター】 地域の課題解決をテーマとした以下の研究に取り組んだ。【再掲】 海水を利用した発電に関する基礎的研究 弓削島周辺の貝殻を利用した教材製作に関する研究 上島町の大気汚染物質の挙動解析 直立した板における流体構造連成解析 球拾いロボットの製作 アルキメディアンスクリュを用いた水力発電モデルの作成 双胴船式開放型下掛け水車における水路内通過水流の観測装置の開発 3Dプリンタを用いたコイルばね式水車トルク計測器の開発 ワルシャート式弁装置がわかる公開講座のための教材開発 アクアポニックス生産システムの開発 地域資源によるバイオマス炭化物の新規利用法の提案 放置竹林を活用した竹・竹炭魚礁の開発 救難情報送信機能を持つ漁船見守りWebシステムの構築 漁船見守りシステムにおけるLPWA多地点同時送信の安定化に関する研究 モーション検知によるライフジャケットのインテリジェント化 ライフジャケットIoT化による見守りシステムの開発 上島町高齢者向けスマホ教室のコースウェア開発 小型船舶航行支援システム用モジュールに対応したアプリ開発 動画像から前景領域を抽出した非接触な水面積計測 俯瞰画像を用いた自然風景の変化抽出システムの開発 	◎:既に達成している	
<p>③-2 産業界等と連携した教育コンテンツの開発を検討するとともに、インターンシップ等の共同教育を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを実施し、延べ人数で商船学科21名、電子機械工学科77名、情報工学科34名、生産システム工学専攻10名が参加した。 企業と協力して、本校学生に対しスマホ教室を12月に実施した。【情報処理教育センター】 地域の銀行と協力して、本校学生に対し、来年度以降の実施に向けて金融教育及び起業家教育の実施を検討した。 	◎:既に達成している	
<p>③-3 セキュリティを含む情報教育について、これまでに開発されたカリキュラムや教材を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3月13日、次年度の授業対策として、全教職員(非常勤を含む)に対し、Moodle、Teams等の操作説明とモラル講習を本校独自で実施した。 4月7日及び7月27日、1年生を対象とした情報モラル講習を実施した。 12月14日、1年生を対象としたドコモのスマホ教室を実施した。 e-Learningの授業において、K-SECの情報セキュリティ教材を活用した。 学生に対する啓蒙活動の一環として、K-SEC主催のセキュリティコンテスト等について周知し、学生が参加した。 四国サイバーセキュリティネットワーク主催のSEC道後イベントにおいて、教職員及び学生が講演を視聴した。 	◎:既に達成している	
<p>④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との連携・協議に参加し、ビデオ教材等を活用した教育、教員の研修、技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学と各高専とのe-Learning高等教育連携(eHELP)全体会議に参加した。 12月2日にキャリア教育フォーラムを開催し、技術科学大学と学生との情報交換を行う場を設けた。 6月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】 	◎:既に達成している	
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>① 学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の有機的な配置を検討するとともに、機構本部が実施する、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関する研修に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生指導支援体制の充実を図るため、カウンセラーは週4日、スクールソーシャルワーカーは週1日、非常勤看護師は週5日の雇用を継続している。 全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に1名参加した。 	◎:既に達成している	
<p>② 高等教育の修学支援新制度の周知を徹底するとともに、各種奨学金制度に係る情報提供をすることで学生支援を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、掲示や郵送による学生や保護者への案内に加えて、学生を対象とした奨学団体などの情報をホームページに掲載した。 	◎:既に達成している	
<p>③ 入学時から卒業時までの計画的なキャリア教育を検討し、卒業生や企業等と連携を図るとともに、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施するとともに、卒業生の情報を活用するネットワーク形成のため、同窓会等との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商船学科において、5月27日に1年から5年生を対象に「商船高専生のための仕事研究セミナー」を開催した。また、電子機械工学科・情報工学科においては、12月2日に3・4年生及び専攻科1年生を対象とした「キャリア教育フォーラム」を開催した。 商船学科1～3年生を対象とする企業説明会の一環として、本校OBによる講演会を実施した。 次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時のアンケートを実施した。 企業から講師を招いた技術者倫理の講義(1コマ90分)を、計13回(25社)実施し電子機械工学科4年が受講した。 企業・海外インターンシップに電子機械工学科4年が参加した。 	◎:既に達成している	

令和5年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
1. 2 社会連携に関する事項 ① 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を、学校要覧・シーズ集やホームページ、プレスリリースなどにより発信する。	・学校要覧及び本校ホームページに共同研究・受託研究等の受入状況や全教員の研究・技術シーズを掲載した。 ・地域共同研究推進センターのホームページに教育研究設備・機器の共用について掲載するなど、内容を充実させた。 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果をresearchmapに掲載した。	◎:既に達成している	
② 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や四国地区地域イノベーションセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元に努める。	・本校の技術シーズの紹介や企業との情報交換を目的とした産学連携フォーラムを12月5日に開催し、企業等から前年を上回る20名の参加があった。 ・KOSENフォーラム等のイベントに2件参加した。 ・第4ブロックで形成する各種の研究会に3名が参画した。また、令和5年度第4ブロック研究助成課題として1件(3名が参画)が採択された。 ・新規に受託研究2件を受け入れた。	◎:既に達成している	
③-1 情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組む。	・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科修了式及び練習船「弓削丸」命名・進水式について、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。 ・3月の卒業式、練習船「弓削丸」竣工披露式についても、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。 ・報道機関にプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部報告済のマスコミ関係掲載情報数は70件であった。	◎:既に達成している	
③-2 ホームページや報道機関への情報提供等を通じて、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。	・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻修了式及び練習船「弓削丸」命名・進水式について、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。【再掲】 ・3月の卒業式、練習船「弓削丸」竣工披露式についても、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。【再掲】 ・ホームページの改善に向けて、レイアウト等を検討した。 ・新練習船をドローンで動画撮影し、Youtubeに投稿した。 ・電子機械工学科と情報工学科の1年生の合同実習や1年生の芸術授業(音楽)を動画撮影し、Facebook・Instagarmに投稿した。 ・報道機関にプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部報告済のマスコミ関係掲載情報数は7036件であった。【再掲】 ・FacebookとInstagarmに144件の投稿を行った。【再掲】 ・Facebookいいね数1,163件(昨年度末比104%)、Instagramフォロワー数1,575(昨年度末比133%)、またYoutube登録数406件(昨年度末比129%)であった。【再掲】 ・HPアクセス数(ページビュー数)は604,791件であった。(昨年度同期比85%)【再掲】 ・機構本部へ報道内容等の報告を随時行った。	◎:既に達成している	
1. 3 国際交流等に関する事項		該当なし	
①-1 特になし		該当なし	
①-2 特になし		該当なし	
①-3 特になし		該当なし	
①-4 特になし		該当なし	
①-5 特になし		該当なし	
② 特になし		該当なし	
③-1 学生が海外で活動する機会を後押しするために、海外留学やインターンシップ、学生交流を推進する。【再掲】	・協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣を9月3日～17日に実施し、3名の学生が参加した。【再掲】 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣を12月16日～28日に実施し、4名の学生が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、学生をタイに4名(11月25日～12月3日)、シンガポールに15名(12月17日～24日)、フィリピンに3名(2月25日～3月9日)派遣した。【再掲】 ・ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)との国際交流プログラム(オンライン)(3月16日実施)に1名が参加した。【再掲】	◎:既に達成している	
③-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組の改善・充実を検討する。【再掲】	・昨年度の海外インターンシップに参加した学生の報告会を6月22日、26日、28日、29日に実施した。また、今年度の海外インターンシップの様子をホームページや「弓削商船だより」で報告した。【再掲】	◎:既に達成している	
③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで、学生の国際会議参加や海外留学等の機会の拡充を図る。【再掲】	・学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供した。【再掲】 ・昨年度の海外インターンシップに参加した学生の報告会を6月22日、26日、28日、29日に実施した。また、今年度の海外インターンシップの様子をホームページや「弓削商船だより」で報告した。【再掲】	◎:既に達成している	
④-1 留学生の確保に向けて、英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。【再掲】	・英語版HPIについて、写真データの更新を行った。【再掲】 ・国際交流推進室Facebookに10件の投稿を行った。【再掲】 ・国際交流推進室Facebookいいね数23件、フォロワー数30件であった。【再掲】	◎:既に達成している	
④-2 特になし		該当なし	
⑤ 教員や学生の国際交流の際には、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。 また、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。	・海外インターンシップに参加する学生には海外旅行保険に加入する同意書を提出させ、保険に加入させた。 ・毎月初めに留学生の在籍確認を行った。	◎:既に達成している	
2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。	・一般管理費(人件費を除く)については3%、その他については1%以上の業務の効率化した。	◎:既に達成している	
2. 2 給与水準の適正化 特になし		該当なし	
2. 3 契約の適正化 業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、入札及び契約の適正な実施について監査を受ける。	・随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等とした。 ・引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を実施した。 ・12月13日に香川高等専門学校から高専間会計相互監査を受け、指摘事項について情報共有し、対応した。また、前年度の全高専の指摘事項について情報共有を行った。	◎:既に達成している	

令和5年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと、本校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を目指して、予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 また、独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	・運営委員会において、予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知した。また、運営委員会の審議を経て配分しており、透明性・公平性を確保した予算配分を行った。 ・収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理した。	◎:既に達成している	
3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図るとともに、成果の可視化を実施する等により、寄附金の獲得に繋げる。	・学校要覧及び本校ホームページに共同研究・受託研究等の受入状況や全教員の研究・技術シーズを掲載した。【再掲】 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果をresearchmapで発信するよう促した。【再掲】 ・本校の技術シーズの紹介や企業との情報交換を目的とした産学連携フォーラムを12月5日に開催し、企業等から前年を上回る20名の参加があった。【再掲】 ・KOSENフォーラム等のイベントに2件参加した。【再掲】 ・第4ブロックで形成する各種の研究会に3名が参画している。また、令和5年度第4ブロック研究助成課題として1件(3名が参画)が採択された。【再掲】 ・科研費講演会を6月1日、科研費レビューを7月12日、19日、26日、8月7日の4回実施した。 ・新規に受託研究2件を受け入れた。【再掲】 ・令和6年度科研費の申請率は76%であった。 ・同窓会の働きかけにより企業から2億円の寄附金を受け入れた。 ・寄附金の成果をホームページで公開した。	◎:既に達成している	
3.3 予算 特になし		該当なし	
3.4 収支計画 特になし		該当なし	
3.5 資金計画 特になし		該当なし	
4. 短期借入金の限度額 4.1 短期借入金の限度額 特になし 4.2 想定される理由 特になし		該当なし	
5. 不要財産の処分に関する計画 特になし		該当なし	
6. 重要な財産の譲渡に関する計画 特になし		該当なし	
7. 剰余金の使途 特になし		該当なし	
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1 「国立高専機構施設整備5か年計画2021」(令和3年3月決定)及び「国立高専専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、主要施設(校舎)における老朽施設の改善を図りながら、施設機能の高度化を図る。	・棧橋架替及び浮棧橋の改修工事を令和6年3月11日に完了した。 ・9月21日に施設整備等検討委員会を開催し、令和7年度概算要求に向けて校舎改修(情報工学科棟)及び学生寮の食堂棟等改修について審議、決定し、提出を行った。 ・施設整備等検討委員会にてライフライン再生(中水設備)整備を令和6年度概算要求にて要求し、令和5年度補正予算にて示達があった。	◎:既に達成している	
①-2 施設の内構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に対策を推進する。	・施設の内構造部材の耐震化について、施設整備費補助事業(棧橋等改修)において、ダクトの補強工事をした。	◎:既に達成している	
② 学生及び教職員に、「実験実習安全必携」を周知するとともに、安全衛生管理のための各種講習会に参加する。	・「実験実習安全必携」をHPに掲載済である。 ・11月27日～28日開催の中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会へ4名が参加した。	◎:既に達成している	
③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。	・令和6年3月19日の施設整備等検討委員会にて白雲館の女子シャワー室等の環境整備計画について審議、検討した。	◎:既に達成している	
8.2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に参加し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。	・昨年度に引き続き、課外活動における教員の負担軽減に向け、茶道、剣道、テニス(ソフトテニス)、トレーニングルームにおいて外部指導者として外部人材に技術指導を委嘱している。さらなる負担軽減のため、サッカー部における技術指導を新たに委嘱した。 ・日直及び男子寮宿直業務(1名)を継続雇用し、週あたり4～5回の宿直業務を割り当てた。これにより1/3の負担軽減が実現されている。また女子寮においても寮母を割り当て、当直教員の配置を軽減した。 ・宿日直計画を1ヶ月ごとに作成していたものを、半年ごとに変更した。これにより、中長期的な業務計画を立てることができ、負担の平滑化、交替が容易になるなどのメリットが確認された。	◎:既に達成している	
② 特になし		該当なし	
③ 若手教員確保のため、教員人員枠の流用について検討する。	・第3回人事委員会にて教員人員枠の流用について検討し、令和6年度の採用計画を決定した。	◎:既に達成している	
④-1 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。【再掲】	・専門科目担当教員の公募のうち商船学科1名、電子機械工学科2名、情報工学科1名について、博士の学位を有すること、または取得見込であることを応募資格に掲げた。【再掲】	◎:既に達成している	
④-2 クロスアポイントメント制度について周知する。【再掲】	・第5回人事委員会において周知を行った。【再掲】	◎:既に達成している	
④-3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。【再掲】	・育児短時間勤務を2名、介護短時間勤務を1名が利用した。【再掲】 ・7月21日付けで同居支援プログラムについて募集を行い、1名の教員を令和6年度から令和10年度まで派遣することとなった。【再掲】 ・個人別の変形労働時間制の導入に向け説明会を行い、意見聴取を実施した結果、令和6年度から同制度を導入することとなった。また、令和5年度は1名について育児に対する配慮として個別の変形労働時間制を実施した。【再掲】 ・女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を12月6日に実施し、15名の女性教職員が参加した。【再掲】	◎:既に達成している	
④-4 外国人教員の採用を継続する。【再掲】	・常勤1名・非常勤講師1名の外国人教員を雇用している。【再掲】	◎:既に達成している	
④-5 研修会等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	・6月1日に2年生を対象に男女共同参画講演会を開催した。 ・第8回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に出席した。	◎:既に達成している	
⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。	・6月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】 ・6月に高専間教員人事交流について周知した。【再掲】 ・愛媛大学に3名を派遣し、2名を受け入れている。 ・学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。【再掲】	◎:既に達成している	

令和5年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績	達成状況 (R5年度末現在)	課題
(2)人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回四国地区中堅係員研修(令和5年5月30日～31日)に1名参加した。 ・第52回四国地区中堅係員研修(令和6年1月23日～24日)に1名参加した。 ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラムレベルⅠ(令和5年11月1日～2日)に1名参加した。 ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラムレベルⅡ(令和5年6月15日～16日)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(令和5年8月30日～9月1日)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(令和5年8月24日～25日)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会(令和5年10月12日～13日※オンライン)に2名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修(中・上級編)(令和5年10月16日～18日)に1名参加した。 ・11月20日にSPOD講師派遣プログラム「業務DX入門」を開講し、教職員計62名が聴講した。 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・期首・期末それぞれに各課長等による面談を実施し、適切な人員配置を行った。 	◎:既に達成している	
8.3 情報セキュリティについて 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るために、機構本部が実施する情報セキュリティ教育(e-Learning)及びインシデント対応訓練等に参加する。また、情報担当者を対象としたDX(デジタルトランスフォーメーション)に持続的に取り組むための研修、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーに参加する。 初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・機構本部が実施する教職員向け情報セキュリティ研修(e-Learning)を実施し全員が受講した。 ・四国サイバーセキュリティネットワーク主催のSEC道後イベントにおいて、教職員及び学生が講演を視聴した。【再掲】 ・第3四半期総務省情報システム統一研修のデジタルガバメントに関する講義を受講した。 ・8月1日実施の令和5年度第1回情報セキュリティトップセミナーにおいて、対象の管理職教職員全員が受講した。 ・11月15日実施の令和5年度第2回情報セキュリティトップセミナーにおいて、対象の管理職教職員全員が受講した。 令和5年度教職員が参加した情報セキュリティに係る研修の数は6件であった。 ・令和5年度情報セキュリティに係る注意喚起・情報共有を34件行った。 ・長期休暇における情報セキュリティ管理についての注意喚起の際に「すぐやる三箇条」を周知した。またインシデント対応訓練において、訓練メールのURLを開いた旨報告が無かった教職員に対し、「すぐやる三箇条」の説明を行った。	◎:既に達成している	
8.4 内部統制の充実・強化 ①-1 校長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を実現するため、定期的に運営委員会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を定期的に開催し、学校運営及び教育活動に関する学内の意見を収集した。 	◎:既に達成している	
①-2 校長・事務部長会議その他の主要な会議について運営委員会で課題や方針の共有化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第1回、第2回、第3回高専機構校長・事務部長会議の内容について、校長が運営委員会にて報告を行い、法人としての課題や方針を共有した。 	◎:既に達成している	
①-3 機構本部に対し、各種会議等を通じ、必要に応じ、本校の状況、意見等を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を定期的に開催し、学校運営及び教育活動に関する学内の意見を収集した。【再掲】 ・7月に理事長ヒアリングに係る資料を提出し、8月8日に校長が理事長ヒアリング(対面)に出席するとともに、本校の状況、意見等を発信した。 	◎:既に達成している	
②-1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長との面談等に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に理事長ヒアリングに係る資料を提出し、8月8日に校長が理事長ヒアリング(対面)に出席するとともに、本校の状況、意見等を発信した。【再掲】 	◎:既に達成している	
②-2 機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等に参加することにより教職員のコンプライアンスの向上を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に教職員を対象としたコンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。 	◎:既に達成している	
②-3 事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行った。 	◎:既に達成している	
③ 内部監査及び相互監査で発見した課題について、速やかに対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・12月13日に香川高等専門学校から高専間会計相互監査を受け、指摘事項について情報共有し、対応した。また、前年度の全高専の指摘事項について情報共有を行った。【再掲】 	◎:既に達成している	
④ 平成23年度に策定された「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実に実施する。加えて、機構本部が開催する研究担当責任者を対象としたWeb会議に参加するとともに、本校の教職員に対して研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・公的研究費等不正使用防止の取扱状況調査において自己評価を実施した。 ・10月に開催された国立大学法人等研究協力部課長会議に参加した。 ・9月に教職員に対して公的研究費等の取扱いに関する説明会を実施した。(受講率100%) 	◎:既に達成している	
⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定める。また、その際には、本校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定めた。また、各項目の内容に応じて、具体的な成果指標を設定した。 	◎:既に達成している	